

「特性要因図」を使い、課題（頭）や要因（骨）を可視化しよう

特性要因図（フィッシュボーンチャート）とは、特性（結果・課題）と要因（原因）の関係を整理して可視化するための図です。課題解決のために図解して利用する思考ツールです。

<図解の順序>

- ① 魚のアタマを決める。魚のアタマとは、結果や課題のことで解決すべき課題です。
- ② 「大骨」を記入する。大骨とは、魚のアタマ（課題・結果）の要因（原因）となる見方・考え方です。
 - ・上部の「大骨」2つは、「つくる責任」（生産者側から） *ヒント：大骨は客観的事実を端的な言葉で書こう
 - ・下部の「大骨」2つは、「つかう責任」（消費者側から）
- ③ 「中骨」を記入する。中骨とは、その大骨を構成するための具体的な要因です。

特性要因図（フィッシュボーンチャート）

①②③の順に、作図します。

「つくる責任」（生産者側から）

